

パック・ミズタニ

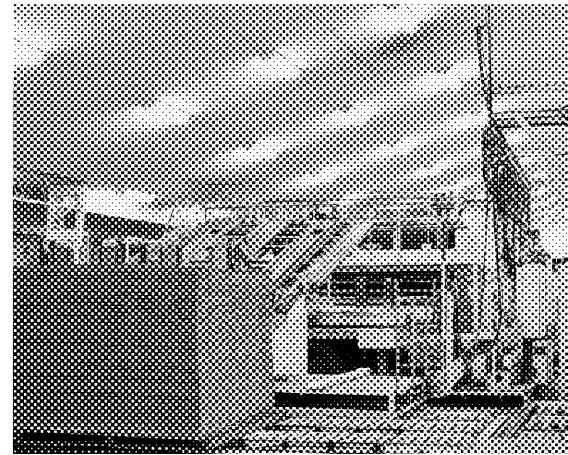
激動の経営

山あり谷あり
大阪国際空港(伊丹空港)の北西、JR北伊丹駅から徒歩数分の距離にその工場はある。段ボールメーカー、パック・ミズタニは、伊丹市西区の伊丹(大坂市西区)の伊丹

だ。飛行機の発着する
びの音が時折聞こえる
中、自動車部品などを
運ぶ大型の段ボールが
次々と組み立てられて
いく。かつて火災で全
焼したこの工場は、日
本最大級の段ボール用
印刷機が稼働する拠点
として再建された。伊
丹の地で、歴代経営者の
思いがつながる。

パック・ミズタニは
ネジやクギなどを運ぶ
木箱の製造を祖業として、1909年に大阪市内で創業した。その後、段ボール製造や伊

会社を継ぐのは自分



伊丹事業所では国内最大級の段ボール用印刷機が稼働する

父の病・祖父の激励に決断

使われるのが現場を見
てみたかったからだ。
仕分けや配送に汗を
流し、顧客の相談窓口
も経験した。単なる運
送ではなく、サービス
業の付加価値を追求す
る「ゼロからイチにす
る商売の仕方」を学ん
だ」とが、のちにパッ
ク・ミズタニの経営方
針に影響を与える。
23歳で転職し、パッ
ク・ミズタニに入社。
得意先の製品を倉庫か
ら入出庫する作業など
を経験した。後継ぎと
しての“修行”を着実
にこなしていたが、転
機は早く訪れた。
当時、社長を務めて
いた父の代で、東日本
大震災や新型コロナウ
イルス感染拡大などで
事業環境は激変した。

「逆境時も冷静に。
大胆かつ素早く動く」
という水谷の信念は、
祖父や父の背中から学
んだという。時計の針
を92年、伊丹事業所で
火災が起きた年に巻き
戻すと、その理由が浮
かび上がつてくる。

一株式会社